

今川義元公命日の臨濟寺特別公開

令和に改元となった今年2019年は今川義元公生誕500年にあたります。戦国時代の駿河国、遠江国を治め、「海道一の弓取り」と呼ばれた優れた武将、今川義元公の復権をめざし様々なイベントが開催されました。

今川家の菩提寺である臨濟寺では義元公の命日にあたる5月19日、「今川義元公合同法要」が行われました。義元公の首が祀られている臨濟寺と胴が祀られている大聖寺（愛知県豊川市）による初の合同法要です。取材は間に合わなかったのですが、午後からの特別公開を見学できましたのでご紹介します。



①

1



②

2

境内ではお坊さんが掃き清めて入場客を迎える準備です。（写真①）
山門にはご当地キャラ「今川さん」がいました。これまでより勇ましい甲冑バージョンとなり、今川義元公生誕五百年祭推進委員会の広報大使を担っています。（写真②）



③

3



④

4

午後の入場時間を待つ人が集まってきました。（写真③）

いよいよ座禅堂から入場です。普段見ることができない数々の展示資料が見学できるとあって、期待が膨らみます。（写真④）



⑤

5



⑥

6

写真⑤は左が今川義元公の軍師で竹千代(徳川家康公幼名)の学問の師でもあった太原雪齊長老の木像です。右は臨濟寺を開山した大休宗休禅師です。

写真⑥は義元公の兄である氏輝公の木像です。父の今川氏親の死去後、14歳で家督を継ぎますが、24歳で急逝したため、義元公が今川家11代当主として家督を継ぎました。



⑦

7



⑧

8

写真⑦は今川義元公の木像です。

臨濟寺のご本尊である阿弥陀仏とともに今川家の位牌が安置されています。(写真⑧)



⑨

9



⑩

10

写真⑨は国の名勝に指定されている池泉廻遊式庭園です。

書院から一直線の階段を上ると茶室「夢想庵」があります。ここからは静岡駅近辺のビルが一望できますが、この日は整理券が入手できず上れませんでした。(写真⑩)



⑪ [11](#)



⑫ [12](#)

写真⑪は徳川家康公が幼少時に英才教育を受けていたという「竹千代君手習いの間」です。天井には龍が描かれています。(写真⑫)



⑬ [13](#)



⑭ [14](#)

この日は御朱印を求める人の列が長く連なりました。(写真⑬)
境内は初夏を思わせる日差しが照りつけました。(写真⑭)



⑮ [15](#)



⑯ [16](#)

鐘楼の日陰で休んでいる人もいました。(写真⑮)
写真⑯に写る背景は臨濟寺を囲む賤機山(しずはたやま)です。今川義元公生誕から500年という歳月を静かに見守ってきました。

臨濟寺では貴重な宝物等を見学できる特別公開を年2回行っています。義元公の命日である5月19日が「春の特別公開」で、10月15日の摩利支天祈禱会が「秋の特別公開」となっています。こうした機会には是非訪れていただき、駿府の礎を築いた今川義元公、徳川家康公を偲んでみてはいかがでしょうか。

取材: 静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章